



校長 坂本 晋

みたけが原便り

第16回 「虫の話」

(8月始業式講話より)

今年はどうとう梅雨が明けないままに立秋が過ぎ(秋が来)てしまいました。ここに来て俄に残暑が厳しくなりましたが、負けずに頑張りましょう。

先月の終業式では、皆さんの希望が多かったサカナの話をしました。イワシは弱い魚なので自分を守るために群れを作ります。人間にもそういう傾向がありますが、群れて安心することで、かえってものを考えなくなったり、牽制し合って成長が遅くなったりするかもしれないと話しました。

それから、イワシの大群の中に一匹だけ立ち混じったナマズはきっと孤独だったと思いますが、でも孤独ってそう悪くないかもしれない。そうも話しました。

どうでしょう。夏休みが明けて、「あっ、あの子なんだか大人っぽくなったな」「あれっ、あいつ少し変わったかも」、もしそういう印象を与える友だちがいたならば、その人は「人間ってひとりの存在なんだ!」と気がつくことで、仲間より一足先に大人への階段を上り始めた人なのかもしれません。周りにそんな人はいませんか?

終業式では、もう一つ「虫の話」もありますよと提案しました。支持率は今ひとつだったのですが、そのままだと尻切れトンボになってしまうので、今日は仕切り直しをしようと思います。

さて、人類の科学技術の進歩には目覚ましいものがありますね。ちょっと古い話なんですけど、わたしの母親は今年90歳になります。若い頃、朝早く起きてご飯を炊く、特に冬場冷たい水でお米をとぐのが辛くて、「あーあ、寝ているうちにご飯が炊けるようにならないかな

あ」と思っていたら、それから何年もしないうちに、電気炊飯器(電気釜)が登場したそうです。

でも今やコロナウィルスの跳梁跋扈によって、地球全体に箍がはめられ、世界経済もすっかり麻痺、さしもの文明社会も危機に瀕してオロオロしています。人類とウィルスとの付き合いは有史以来ですが、この知性もなければひょっとしたら生き物ですらないウィルスと上手につき合う術をいまだ会得していないんですね。

さて、そこで皆さんに質問です。今地球上で一番成功している(繁栄している)生物は?と聞かれたら皆さんならなんと答えるでしょうか?

もちろん「われわれ人類、ホモ・サピエンス!」というのも一つの回答ですね。今地球には77億人が暮らしていて、地球を支配しているかのように見えます。でも生物総量(全部の重さでいう)なら、実はアリの方が人間より一桁大きい(何十倍も重い)んですね。

それから「種(類)」の多さで比べるとどうか?実は動物、植物、細菌、藻(そう)類(海藻とか植物プランクトン。)これら全部を合わせたよりも遙かに多いのが、「昆虫」なんです。将来飢餓の時代が来れば、人間を救うのは「昆虫食」だろうと言われる所以です。さあ、こころの準備は出来ていますか?

東南アジアでは伝統的に昆虫を食べることが盛ん。ミャンマーではフライドコオロギを30匹400円で売っているそう。日本でも昔からイナゴの佃煮を食べますよね。最近ではコオロギ煎餅のネット販売が始まりました。エビセンの味がするそうです。その内にはゴキブリの唐揚げ?ハエのフライ!...(気がつきましたね?)

ということは、昆虫は食物連鎖でいうとかなり低い地位にある。さあ、敵に捕食されたら大変です。敵に食べられないための最善の手段は何でしょうか？(スリッパで叩かれるゴキブリの身になって考えましょう。)

まずは「逃げること！」(6月に2年生の自慢研究があった。1組の久保君の研究は「逃走経路と心理」でしたね。「逃げるが勝ち」です。)逃げるのは、食べられないための有効な手段ですね。でもこれは実は最後の非常手段です。全力で走ったり飛んだりするとエネルギーを使います。疲れるんです。

次に「戦う！」という選択肢もあるが、リスクが高すぎる。「螻蛄の斧」という言葉を知っている人？闘争心は認めますがこれもあまり賢い判断とはいえない。

さあ、では、ベストの手段は？・・・これが「隠れること！」なんです。

イギリスにオオシモフリエダシャクという蛾がいます。蛾ってチョウチョに比べると概して地味ですよ。鳥に突かれられないため、樹の皮に生える白い地衣類(コケ)に擬態して(真似て似せて)みんな白っぽい色をしていた。紛れて隠れていたんです。保護色です。ところが、19世紀に入って、マンチェスターで黒い個体が見つかり、やがて50年後には黒い個体だらけになってしまった。

なぜか？(産業革命は18世紀半ばから19世紀にかけて。石炭を動力に使う)工場の煤煙で地衣類が枯れて、黒っぽい幹ばかりになったからなんです。煤だらけになった世の中に自分を合わせて白から黒に色を変えた。

ところがさらに、今度は20世紀になって、大気浄化法(公害が起きるので、工場は煙突から煤煙を出してはダメですよという法律)が成立すると、また、白い個体が多くなった。彼らは僅か50年で見事な適応をやってのけるんです。

さあ、我々は大丈夫かな？胸を張って人類は昆虫の上に君臨する存在と云えるか？

今世紀末、人間の活動に起因する地球温暖化

で、気温が3~4度上昇すると云われています。(風邪で発熱した時を思い出してごらん!)氷が溶けて海面は80cm上昇します。砂漠化や大気汚染が進み、食料生産が逼迫するといわれています(さっそく昆虫食の出番です)が、危機感が感じられないなあと思うのはわたしだけでしょか。わたしはよいのですが、皆さんが生きているのは人生百年の時代です・・・

「ゆでガエル」の話は知っていますね。カエルを熱い湯に入れると慌てて飛び出します。でもカエルを水に入れてゆっくり温度を上げていくと、危険を察知できずにそのまま死んでしまう、ゆでガエルになってしまうという話です。

皆さんには、しっかりと学んで知識・技能を身につけ、思考力・判断力・表現力を鍛え、特にも想像力と、複合的思考力、批判的思考力(クリティカルシンキング)を駆使して、行動していくことを期待します。

そうすることで、附中生である皆さんには、昆虫やウィルスを超えて、われわれ人間がこれからも本物の知恵を発揮しながら、間違いなくよりよい社会に向かって発展し続けていくのだということを証明してほしいと思います。

それが皆さんの使命です。ちなみに、ウィルスの進化のスピードは人間の100万倍といわれています。彼らに負けないように頑張りましょう。



オオシモフリエダシャク(ウィキペディア)